
悲劇か喜劇か或いは日常か

埴輪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

悲劇か喜劇か或いは日常か

【Nコード】

N4242V

【作者名】

埴輪

【あらすじ】

シュールでダーク気味な短編。

もう私達終わりね、と君が言うので、
僕は静かに頷くしかなかった。

長い付き合いだった。

世間的に見て僕らの恋人としての期間は非常に長かった。
今まで多くの友人達が僕達を祝福した。

その友人達も次から次へといなくなった。

僕達は、僕と君はただ涙を流してそれを見送るしかできなかった。
互いを見て、そして寄り添って。

連れて行かれた僕達の友人がどれだけ素晴らしかったのかと、君と
語り合い、涙を流し、悲しみを吹き消すように歌を歌った。

友人達へ祝福を。

そして僕達の未来に、安寧を願って。

僕は歌が下手だったけど、君が僕の歌を聴くと元気になると言うか
ら、僕は精一杯歌った。

君は歌が下手だと恥ずかしがるけど、僕は君の歌を聴くと元気にな
ると君に言うので、君はたくさん歌ってくれた。

そうして僕達はずっと一緒にいた。

口付けをし、皮膚と皮膚を擦り合わせ、時には追いかけてこもした。
明日とも知れぬ身だからこそ僕達は精一杯遊んだ。

そんな僕達の姿を見て晒う奴もいたが、彼等が心底僕達のことを羨
ましがっていたことを知っていた。

確定された運命を待つ僕達だからこそ、心の拠り所が必要なのだ。
例え、いつかそれを失ってしまうと分かっている。

それが二人の運命なのだと、僕達はちゃんと、最初から理解しているのだ。

ただ、それでもやっぱり別れは悲しくて、辛くて。身を引き裂かれるほどに痛い。

君が別れを告げた次の朝。

僕達の神様が僕達の元へとやって来た。

僕は、抵抗する。

無駄だと分かっても、抵抗する。

僕達の神様が君を連れて行くから。

僕から君を奪っていくから。

僕はそれをなんとか喰い止めようと泣き喚くけど、君は結局連れて行かれる。

最後に。

さよなら、と君が悲しげに言うので、

僕もさよならと涙を流した。

私の事も、ちゃんと歌ってね、と君が笑顔で言うから、

僕は下手糞な歌を、君を讃える歌を、泣きながら一心不乱に歌った。喉が枯れてしまうぐらい、僕自身が壊れてしまうぐらいの悲しみと君への愛を、死に物狂いで歌った。

さよなら僕の恋人。

さよなら。

明日になれば、僕もそっちへ行くよ。

(××××××××××についで……)

（後書き）

（養殖豚達の悲劇について……）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4242v/>

悲劇か喜劇か或いは日常か

2011年10月7日04時30分発行